

# JSSSA 2019 MIYAGI

第15回 日本短期滞在外科手術研究会学術総会

選ばれる医療をめざして  
～ one for all, all for one ～

6/8 土

ホテルメトロポリタン仙台  
〒980-8477  
仙台市青葉区中央1丁目1-1

プログラム・抄録集

会長 長谷川 和住  
北仙台はせがわクリニック 院長

第15回日本短期滞在外科手術研究会学術総会開催にあたって



第15回日本短期滞在外科手術研究会学術総会  
会長 長谷川 和住  
北仙台はせがわクリニック 理事長・院長

この度、第15回日本短期滞在外科手術研究会を2019年6月8日(土)に仙台市のホテルメトロポリタン仙台で開催させていただく事となりました。本研究会には第5回から参加し、第9回からは世話人として関わっております大変思い入れのある本研究会の学会長を、若輩者ながら担当させていただく事は大変光栄なことであり感謝しております。そして、これもひとえに代表世話人でもあります東京ヘルニアセンター執行クリニック執行友成先生のもとで研鑽させていただき、日帰り手術の技術のみならずホスピタリティーマインドや社会人としての礼節を教えていただいた賜物だと思ひ、大変感謝致しております。

今回の研究会のテーマは『選ばれる医療をめざして～ one for all, all for one～』としました。『一人はみんなのために、みんなは一人のために』と間違えて認識している方もいらっしゃるかもしれませんが、本当の意味は『一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために』です。一つの目的とはラグビーでいうとトライにあたります。ラグビーというスポーツは、攻撃する際にサインが出て全員そのサイン通りの動きをします。理論的にはサイン通りに全員がプレーすると必ずトライがとれます。ですが、現実では中々とれません。何故とれないのかという理由は2つしかなく、敵のディフェンスがうまい・味方がミスをした、のどちらかです。いずれにしても、突然前提条件が崩れて想定していない事態が発生するのですが、ボールをキープしないとトライはとれません。では、どうやってボールをキープするかというと、ボールを持っている人が役割を果たせない可能性を常に想定して、周りがフォローし続ける事でキープができます。ミスはいつでも起こると想定する事・周りが全力でフォローする事・ミスは起きるものなのでミスしたことを責めない事、などを学生時代にラグビーを通じて学びました。医療においても安全に日帰り手術を達成するためには、全員が一つの目的を意識し、各々がそれぞれの役割をきちんと果たしながら、お互いを尊重しつつ、フォローしていく姿勢が大切かと思ひます。

特別講演としましては、「日本の宿 古窯(こよう)」女将:佐藤 洋詩恵氏にお願いしております。古窯(山形県上市市)は、プロが選ぶ日本の旅館100選にて43年連続TOP10に選ばれ続けているおもてなしの温泉宿です。また温泉宿経営のみならず、菓子工房KOYO・ぎんざ古窯と幅広く事業展開されております。仕事に対する姿勢や接遇・人材育成などについてご講演をいただきます。

少子高齢化・雇用環境の変化など、社会保障制度の前提となる社会経済情勢は大きく変わってきており、医療においても病院完結型医療から地域連携型医療へ移行してきました。それに伴い入院期間の短縮が求められるようになりました。日帰り手術の必要性を再認識し、安心・安全に日帰り手術を行っていただけるよう、多数の先生方にご参加いただき活発な討論をお願いしたいと存じます。より多くの参加者と多数の演題応募を心よりお願い申し上げます。また、DSコーディネーター講習会は、研究会前日の午後開催させていただきます。DSコーディネーター講習会会場は、仙台駅前のTKPガーデンシティ仙台で行います。研究会のみならず講習会にも多数のメディカルの方々のご参加をお待ちしております。



JSSSA  
Japan Short Stay Surgery Association

主催：日本短期滞在外科手術研究会